

令和5年度 障害者スポーツ推進プロジェクト
(障害者スポーツの実施環境に整備等に向けたモデル創出事業)

取組成果報告

取組テーマ：デジタル技術を活用した障害者スポーツ実施環境の整備

H2L株式会社
日本障害者カヌー協会



会社紹介(企業理念)



Happy Hacking Life

人は、体験を喜びとして生きている
デジタルで体験を分かち合う

固有感觉

→物体に作用する感觉
→能動的で臨場感がある体験共有に必要な感觉



他者やロボット、アバターと体験を共有する技術「BodySharing」

会社紹介(事業内容)

「BodySharing」の普及を目指した製品開発や事業開発



スポーツ



① 障害者スポーツの課題解決を目指した

VRカヌ一体験システム「カヌーシェアリング」の開発

→ 障害者が屋内にいながらにして、

リアルなスポーツ体験を行える環境を提供

→ 屋外スポーツや地域スポーツの楽しみや効果を気軽に得られる機会の創出

本システムにはH2Lの独自技術「BodySharing技術」を使用

→ 「パドルで水を搔く際の水の重さ」や「座面の揺れ」を再現

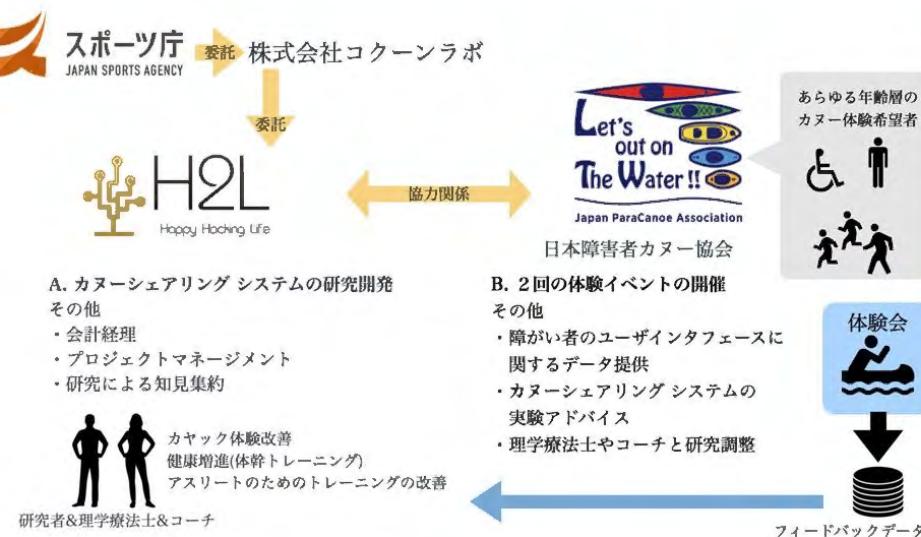
リアルな体験を可能に

② 「カヌーシェアリング」体験イベントの開催

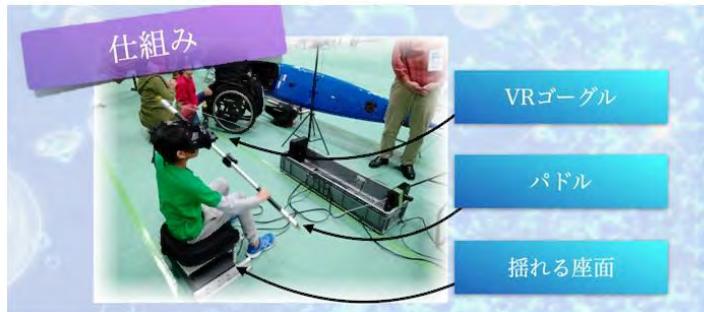
→ 障害の有無や年齢を問わず、あらゆる方へのカヌ一体験の提供

→ システム改善のためのフィードバック取得

事業の実施体制・スキーム



①VRカヌ一体験システム「カヌーシェアリング」の開発



実際に水を搔くときのような重さを感じられるパドルと、
実際のカヌーの揺れを再現した座面機構
→筐体は大人2人で持ち運びできる大きさ＆重さ

VRゴーグルで見える映像
※障害者カヌー協会様と連携し、
鹿児島県と香川県の2地点の映像を用意

②「カヌーシェアリング」体験イベントの開催

No	日付	種別	実施場所	主な対象者	体験者数
1	2023/11/8(水)	テスト	H2Lオフィス	JPCAスタッフ	1
2	2023/11/11(土)	テスト	臨海町コミュニティ会館	JPCAスタッフ	9
3	2023/11/23(木)	体験会	武蔵野の森 総合スポーツプラザ	イベント来場者	11
4	2023/12/1(金)～ 2023/12/3(日)	体験会	菱刈カヌー競技場 (鹿児島県伊佐市)	イベント来場者	71
5	2024/1/20(土)	体験会	東京体育館	イベント来場者	25
					計 117

イベント運営の経験豊富な障害者カヌー協会様と連携し、
当までの準備や体験会当日の運営を進行



鹿児島県伊佐市
での体験の様子
※障害者カヌー協会様を通じて、伊佐市とも連携



東京体育館
での体験の様子

・カヌー選手や体験イベント参加者の意見をもとに、筐体やアプリケーションを改善

→「障害者カヌーの競技者(初心者)向けの練習用」

「障害者カヌー普及を目的とした、未経験者向けの体験用(イベント用)」
の2通りでの展開を検討

→障害の有無や年齢を問わず、

あらゆる人の健康増進やトレーニング効率化への展開も併せて検討

・カヌー以外のスポーツへの展開

→手軽に実施できる障害者スポーツ技術の確立やコミュニティの形成をリードできる存在を目指す

●クオールホールディングス株式会社

令和5年度 障害者スポーツ推進プロジェクト
(障害者スポーツの実施環境に整備等に向けたモデル創出事業)

取組成果報告

取組みテーマ

エ) オープンスペースを活用したインクルーシブなスポーツ実施環境の整備

クオールホールディングス株式会社



1-1. クオールホールディングス株式会社



名称	クオールホールディングス株式会社
創業	1992年10月4日
設立	1992年10月13日
代表者	代表取締役社長 中村 敬
資本金	57億8,689万円
従業員数（連結）	正社員5,746名 臨時雇用者2,152名（2023年3月31日現在）
上場取引所	東京証券取引所 プライム市場（証券コード：3034）
売上高（連結）	1,700億円（2023年3月期）
本社	〒105-8452 東京都港区虎ノ門4-3-1 城山トラストタワー37階
大阪事務所	〒542-0076 大阪市中央区難波5-1-60 なんばスカイオ22階



Quality Of Life

医療を通じて、患者さまの
「生活の質」向上を願う想い



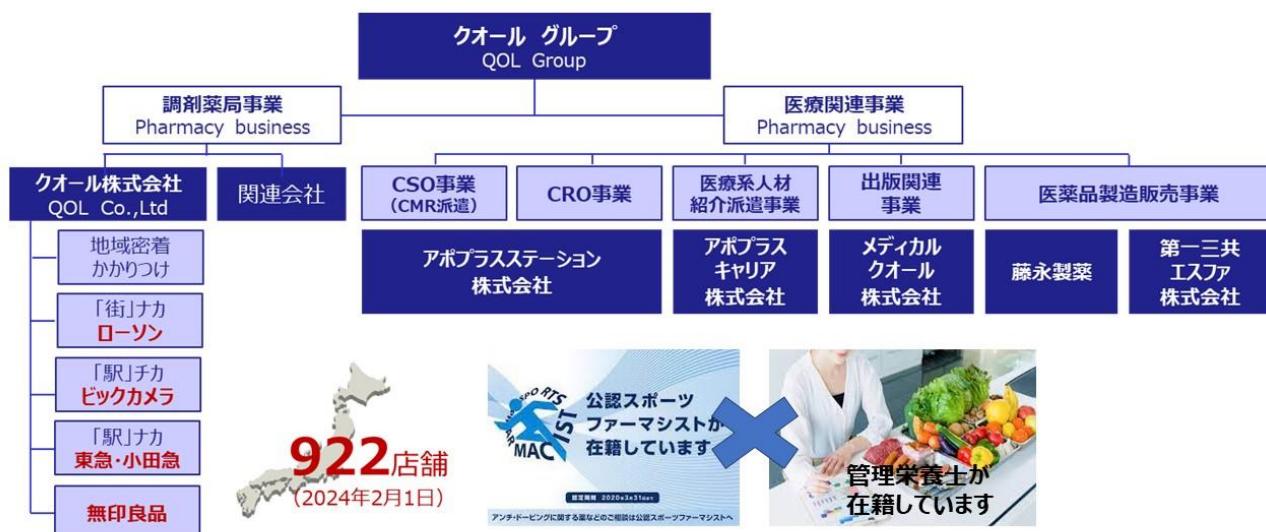
「あなたのいちばん近くにある安心」

2

1-2. クオール事業全体像



- クオールグループは、「調剤薬局事業」と「医療関連事業」の2つの事業で構成されており、それぞれの領域において医療や健康を支える事業に取り組んでいます。各事業の相乗効果を最大限発揮し、グループ全体の総合力でヘルスケア分野の発展に貢献しています。



3

1-3. クオールグループ特例子会社



- クオール株式会社(現：クオールホールディングス株式会社)では、2008年以降、在宅を中心とした重度身体障害者の雇用を積極的に行ってきました。これをより促進・発展させるために、**2009年2月にクオールアシスト株式会社が設立され、同年3月に保険調剤薬局業界では初の特例子会社に認定されました。**

はじめはクオール株式会社の就業管理などの入力業務からスタートしたクオールアシストですが、当初よりWeb会議システムを用いてミーティングを行うことにより社員同士での意思疎通を図り、通勤を必要としない職場環境を確立してきました。

名称	クオールアシスト株式会社
代表者	代表取締役社長 松原 恵利香
設立	2009年(平成21年)2月12日
株主	クオールホールディングス株式会社 100%
事業内容	各種ポスター・チラシ・名刺制作、印刷、ホームページ制作・更新・管理、コンサルティング業務

業務を通じて社会に貢献できる喜びや
生きる希望を持っていただきたい



差別のない平等な
世の中の実現に向けて

4

1-4. 一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟 (JIFF)



理 念

- 広くサッカーを通じて、障がいの有無に関わらず、誰もがスポーツの価値を享受し、一人ひとりの個性が尊重される活力ある共生社会の創造に貢献する

名称	一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟
設立	2016年4月1日
会長	北澤 豪
副会長	田中 賢二(日本ろう者サッカー協会) 前鼻 啓史(日本アンプティサッカー協会)
専務理事	松田 薫二(日本サッカー協会)
理事	井口 健司(日本ブラインドサッカー協会) 佐々 肇(日本ソーシャルフットボール協会) 神 一世子(日本CPサッカー協会) 鈴木 宏和(日本知的障がい者サッカー連盟) 日比野(田中) 暉子(桐蔭横浜大学) 山木 讓(日本電動車椅子サッカー協会)



5

1-5. クオールホールディングス株式会社と一般社団法人日本障がい者サッカー連盟がパートナーシップ契約を締結



- クオールホールディングス株式会社は、クオールグループとして全国に約900店舗の薬局を展開しており、従業員には多くのスポーツファーマシストや管理栄養士の資格保有者がいます。
- これまでクオールは特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会による視覚に障がいがある方やそのご家族を対象とした「おたすけ電話相談窓口」事業への薬剤や食事の相談、**特定非営利活動法人日本アンティサッカー協会およびデフサッカーチーム（聴覚障がいを中心としたインクルーシブチーム）**へのアンチ・ドーピングや食事・栄養相談を行うなど、障がい者サッカーへの支援を行ってきました。
- 高度な専門知識を持ったスポーツファーマシストおよび管理栄養士によるサポートの場を広げることで、薬局機能を向上し、すべての人が安心して相談できる薬局づくりおよび、障がいの有無に関わらず医療サービスを受けられる共生社会の実現を目指します。



6

2-1. 令和5年度スポーツ庁委託事業に契機に、クオールとJIFFの連携を強化



1.事業の名称	令和5年度障害者スポーツ推進プロジェクト (障害者スポーツの実施環境の整備等に向けたモデル創出事業)
2.事業の目的	■ 障害のある方ない方とともにスポーツを楽しむ機会を創出し、障害者が生涯にわたってスポーツを実施するための基盤を整備する観点から、 障害のある方ない方が身近な場所でスポーツをともに実施できる環境の整備 や 障害者スポーツ団体、地方公共団体、民間企業等の関係団体の連携体制 の構築等を図ることを目的として実施する。
3.事業の内容	<p>(1) モデル創出事業の実施</p> <p>工) オープンスペースを活用したインクルーシブなスポーツ実施環境の整備</p> <p>(2) 実行委員会の設置・開催</p> <p>(3) 効果の検証</p> <p>(4) 実施事業に関する情報発信</p> <p>(5) 事業成果の報告</p>

医療業として地域の健康を守る
D & Iの醸成

スポーツファーマシスト+管理栄養士
スポーツサポートチーム活躍の場

薬剤師 = ×薬を調整する人
健康をプロデュース出来る人材

7

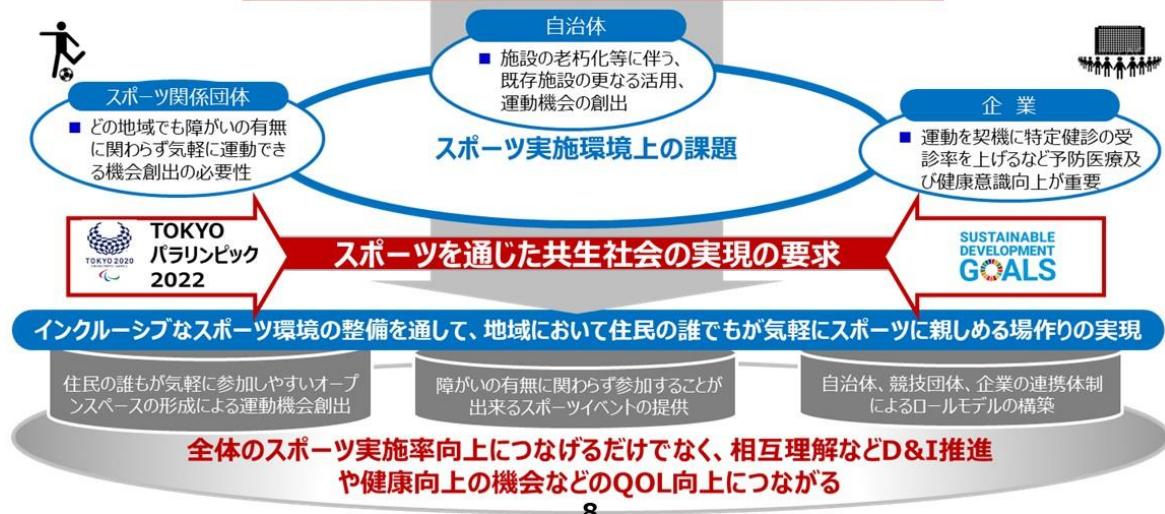
2-2. 事業コンセプトと実施概要



- ウォーキングフットボールを通じて、各地域の特性に応じ持続可能なオープンスペースを活用したインクルーシブなスポーツ実施環境のモデル構築を行います。

健常者成人：56.4%、障がい者成人：31.0%（週一日以上のスポーツ実施率）

障がいの有無を問わず、成人のスポーツ実施率が低迷



【ご参考】地域において住民の誰でもが気軽に親しめるスポーツ：ウォーキングフットボール



- 走らないことで、緩やかに身体(心拍)に強い負担・負荷をかけず、長い運動が可能、試合中はほぼ一定に歩き続けるので、その活動量値も軽いジョギング以上の数値になることから、身体的にも効率のいい運動効果が期待できます。
- 運動強度も少なく、軽い運動が出来る服装でも十分出来ます。(競技大会にはルール規約有)
- 走る一般的なサッカーと違い、歩くサッカーはスピードが遅いため、サッカーの技術(止める、蹴る)、動体視力、視野と身体運動の運動など、基礎的なトレーニングの全てを身に付けることが出来ます。

基本的な禁止事項

走行禁止！早歩きはOK！

両足が浮いた状態を「走っている」とみなします。
踵から着地するように心がけて下さい。

**接触禁止！
スライディング禁止！
ヘディング禁止！
相手がボールを保持している時は取りに行かない！**

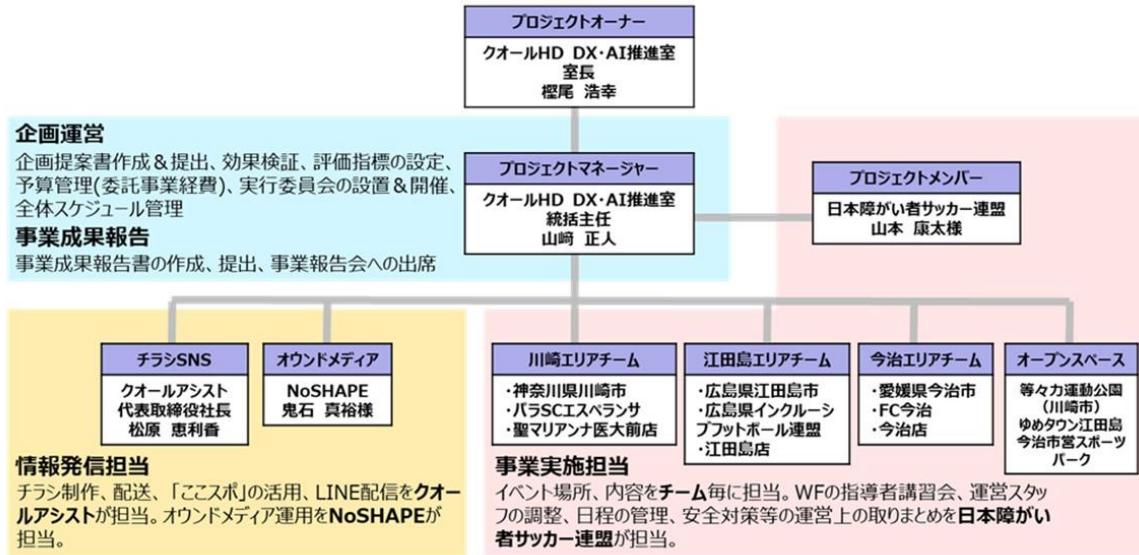


1番大切なことは、みんなで笑顔で楽しむことです！

o

2-3. 事業の実施体制

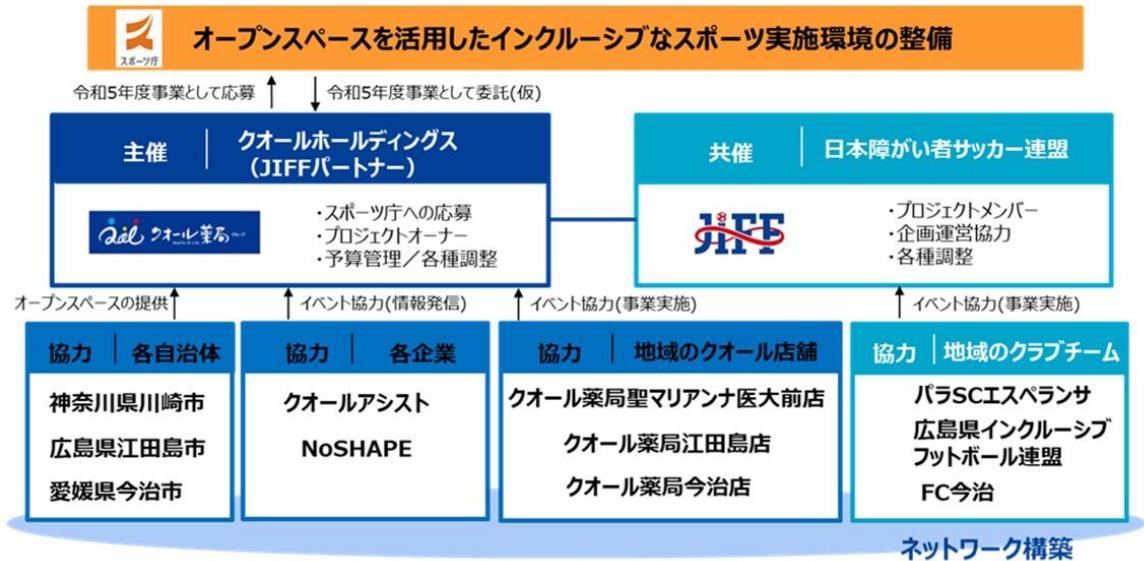
- 日本サッカー協会参加組織である日本障がい者サッカー連盟を中心とし、各地域のインクルーシブフットボール連盟と連携、人材育成（コーディネーター講習会実施）により、地域での自走化を目指します。



10

2-4. モデル事業の実施スキーム

- 地方自治体（神奈川県川崎市、愛媛県今治市、広島県江田島市）、スポーツ統括団体（日本障がい者サッカー連盟））、企業（クオールホールディングス）の3者が一体となり、モデル事業を各地域で推進しました。



11

2-5. モデル事業の実施状況



■ 3地域で合計180名の方々（うち障がいのある方の参加：59名 全体の33%）にご参加いただきました。

イベント名称	実施日時・場所	協力団体・参加者数
歩いてゴール！ だれでもウォーキングフットボール かわさき	日時：2023年10月7日（土） 13時～15時 場所：等々力緑地内催し物広場	事前予約参加者：41名 当日受付参加者：32名 協力団体：パラSCエスペランサ、川崎フロンターレ、日本ミニフットゴルフ協会
歩いてゴール！ だれでもウォーキングフットボール 江田島	日時：2024年1月14日（日） 13時～15時30分 場所：ゆめタウン江田島 2F子どもの遊び場	事前予約参加者：24名 当日受付参加者：11名 協力団体：広島インクルーシブフットボール連盟、サンフレッチェ広島（森崎浩司アンバサダー参加）
歩いてゴール！ だれでもウォーキングフットボール 今治（仮称）	日時：2024年3月10日（日） 9時30分～12時（予定） 場所：今治市営スポーツパーク	前予約参加：44名 当日受付参加：28名 協力団体：今治夢スポーツ（FC今治）、日本ミニフットゴルフ協会

12

2-6. モデル事業の実施の様子



2-7. モデル事業のKPIと考察



モデル事業のKPI

成 果

(ア) 予約参加者と当日参加者の比率 : 当日参加率：40%

39%



■ オープンスペースの有効性が証明出来ました。人流の多いところで良いアピールが出来ました。

(イ) 障がい者と健常者の参加者比率 : 障がい者参加率：40%

33%



■ 障がいのある方への告知、障がい者用トイレの確保等イベント実施上の課題が残っています。

(ウ) 年令分布及び性差構成比率 : 全ての年令領域に広く分布

未就学児～70歳代まで



■ オープンスペースの有効性が証明出来ました。人流の多いところで良いアピールが出来ました。

(エ) 成人参加率 : 50%

56%



■ 家族で楽しめる為、親子連れの参加が多いことが影響しての結果となりました。

2-8. スポーツを通じた取り組み



健康体操講座 「通いの場」



元気なひとも、いらっしゃい。
「からだ」と「ごこち」を鍛やかに保つには、
いつものくらしを見つめなおすことが大切です。
からだを知ることから始めて、
気軽に心身を整えられる場所として、
このまちの皆さんのお役に立ちたいと考えています。

E-Sports 「太鼓の達人」「グランツーリスモ」



3X3.EXE



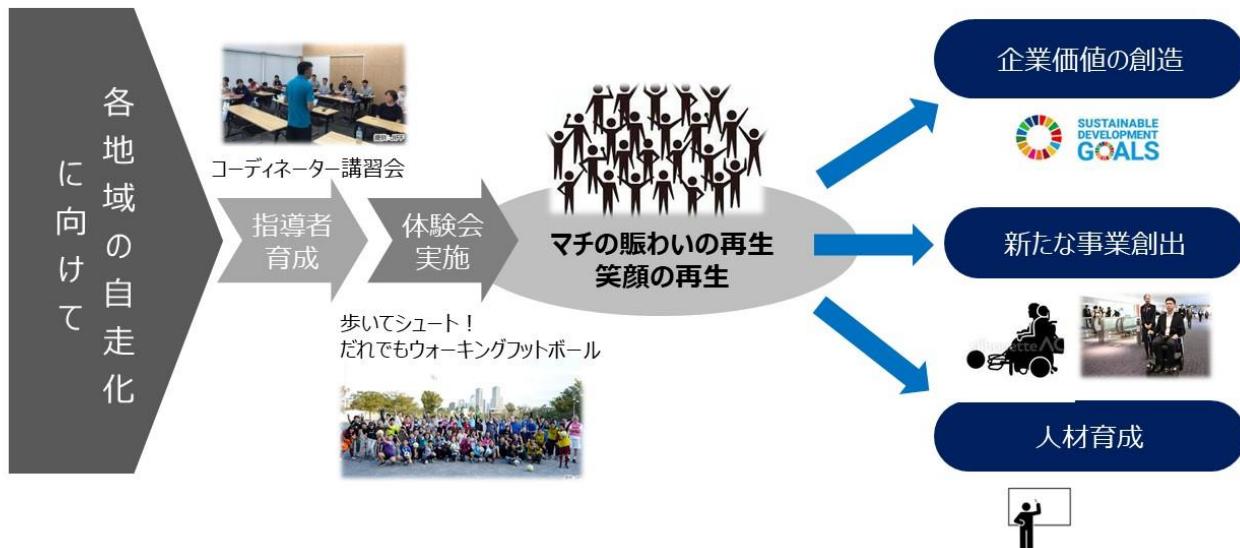
E-Sports先進国：韓国「東亞日報」



6. 今後の計画について



- ウォーキングフットボール、ミニフットゴルフ等インクルーシブなスポーツを通じて、マチの賑わいの再生、笑顔があふれ、健康な人達が集うマチ作りに貢献したいと考えます。



●北海道

令和5年度 障害者スポーツ推進プロジェクト
(障害者スポーツの実施環境の整備等に向けたモデル創出事業)

取組成果報告

取組テーマ：オープンスペースを活用したインクルーシブなスポーツ実施環境の整備
地域の課題に対応した障害者に対するスポーツ振興、実施環境の整備

北海道



北海道におけるパラスポーツの現状と本事業採択について



○令和4年3月 北海道スポーツ推進条例 策定

○令和4年7月 北海道スポーツみらい会議 発足

○令和5年3月 第3期北海道スポーツ推進計画 策定



～北海道スポーツみらい会議～

(目的) 行政や教育機関、スポーツ団体、プロスポーツチーム、経済界その他関係者による協働の取組を促進
(設立) 令和4年7月17日
(構成) 会長：知事、副会長、橋本参議、道経連など、構成員：270団体



条例及び計画の策定を踏まえ、 本道におけるパラスポーツの一層の普及を図る

北海道スポーツ推進条例

第10条 道は、障がい者が自動的かつ積極的にスポーツに参加することができるよう、その障がいの種類及び程度に応じたスポーツへの参加の機会を提供するとともに、障がい者のスポーツを推進する人材及び団体等の育成を図るために必要な施策を講ずるものとする。

事業応募

スポーツ庁の委託事業「障害者スポーツ推進プロジェクト(障害者スポーツの実施環境の整備等に向けたモデル創出事業)」の採択

北海道スポーツ局スポーツ振興課オリンピック・パラリンピック連携室

2

事業趣旨



・北海道は、積雪・寒冷、広域分散といった地域特性から、特に家に閉じこもりがちな冬期間に障がいのある方をイベントに連れ出すことが大きな課題となっている。

・そのため各地域で障がい者が身近にスポーツを楽しめる環境は十分に整っておらず、障がい者スポーツを支え、推進する団体や組織が脆弱であることから、地域の障がい者スポーツの関係者と教育関係者や企業、団体などが協働しながら、積雪寒冷の特性を生かし、「冬の北海道から発信！極寒でパラスポーツを楽しもう！！」をスローガンに掲げ、競技団体の協力を得て考案した「雪中ボッチャ」などが体験できる、屋外スポーツイベントを実施する。

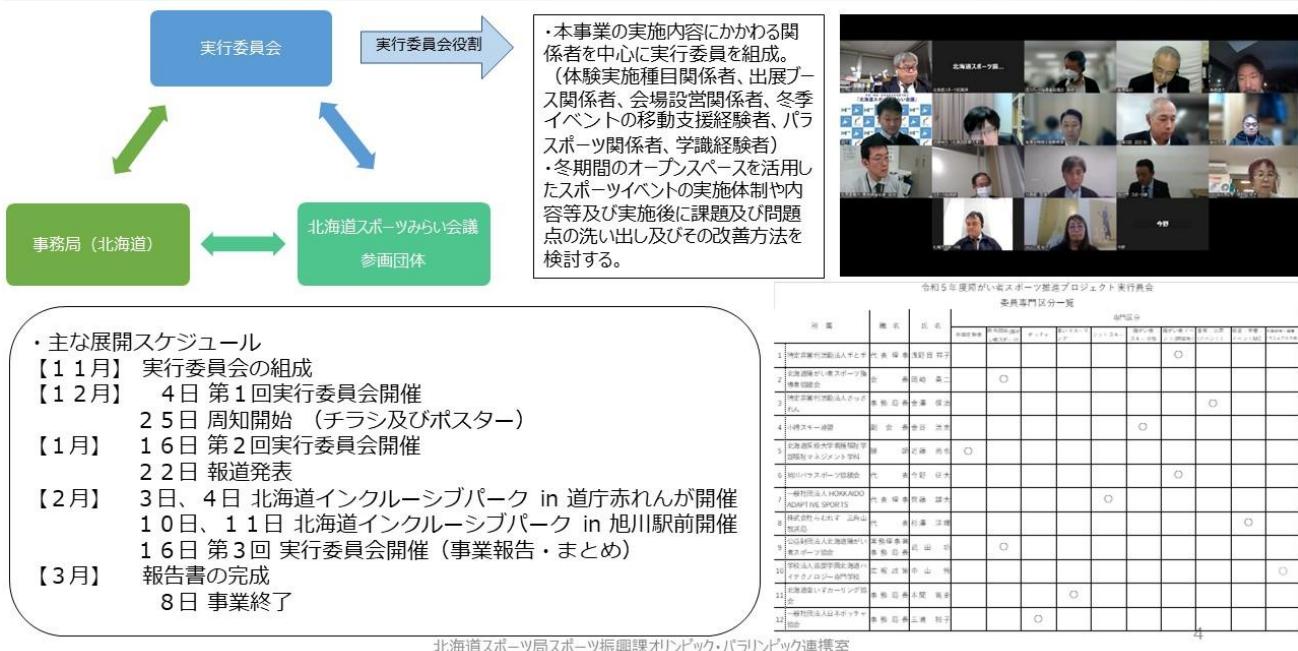
・また、障がい者の理解促進や、障がい者と障がいのないとの交流の推進には、身近な「スポーツを楽しめる場」を創出していくことが必要であるため、本事業の実施により、地域の障がい者スポーツの実施体制を構築するとともに、障がい者スポーツへの理解促進を図り、「支援者」を広げ、身近な場所でスポーツを楽しむことができる環境づくりを進めることを目指す。

・今年度は、支援者との連携やイベント内容等を検討、実施し、冬期間におけるパラスポーツイベント実施に際してのポイントや留意点を取りまとめ、周知することにより最終的には全道への普及・展開を目指す。

北海道スポーツ局スポーツ振興課オリンピック・パラリンピック連携室

3

実施体制とスケジュール



事業概要（北海道インクルーシブパークin道庁赤れんが）



【会場：北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）前庭】 来場者数 2日間で1,600人以上



【開催概要】

【開催日時】
令和6年2月3日～4日
11:00～16:00

【開催内容】
シットスキー、雪中ボッチャ、
ピクルスストーンカーリング、
ステージイベント、出店

【主 催】
北海道
北海道スポーツみらい会議

【協 力】
札幌市/公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会/北海道障がい者スポーツ指導者協議会/（一社）日本ボッチャ協会/小樽スキー連盟/北海道車いすカーリング協会/（一社）HOKKAIDO ADAPTIVE SPORTS/NPO法人手と手/NPO法人さっされん/三角山放送局

5

北海道インクルーシブパーク in 道庁赤れんが（札幌会場）



シットスキー体験



雪中ボッチャ体験



ピクルスストーンカーリング体験



会場出入口



チャレンジドチアダンス披露



福祉事業所等による出店ブース

北海道スポーツ局スポーツ振興課オリンピック・パラリンピック連携室

6

事業概要（北海道インクルーシブパークin旭川）（旭川会場）



【会場：JR旭川駅近郊】

来場者数 2日間で600人以上



会場全体写真

【開催概要】

【開催日時】
令和6年2月10日～11日 10:00～16:00

【開催内容】
シットスキー、雪中ボッチャ、ピクルスストーンカーリング

【主 催】
北海道、北海道スポーツみらい会議

【協 力】
旭川市/公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会/北海道障がい者スポーツ指導者協議会/一般社団法人日本ボッチャ協会/小樽スキー連盟/北海道車いすカーリング協会/旭川バラスポーツ協議会/（一社）HOKKAIDO ADAPTIVE SPORTS/NPO法人手と手/NPO法人さつされん/三角山放送局



シットスキー



雪中ボッチャ



ピクルスストーンカーリング

北海道スポーツ局スポーツ振興課オリンピック・パラリンピック連携室

7

企業連携とスタンプラリーの実施



イベント実施に伴う事前準備や当日の運営等を、実行委員(委員所属団体)や北海道スポーツみらい会議参画団体等と連携して行った。教育(特別支援学校への周知)、行政機関(上川総合振興局のプレスリース)における発信、テレビ取材、新聞取材、ラジオ広報、地方情報誌(旭川)での発信、他イベントとの連携(旭川冬まつり)。3つのスポーツ体験によるスタンプラリーも実施。



8

来場者数についての成果と考察



考察

令和5年版障害者白書(2023内閣府)では、「身体障害者(身体障害児を含む。以下同じ。)436万人、知的障害者(知的障害児を含む。以下同じ。)109万4千人、精神障害者614万8千人」と示され、「単純な合計にはならないものの、国民のおよそ9.2%が何らかの障害を有していることになる」と述べられている。一方で、2022年度末の北海道の人口に占める障がい者の割合について、身体障がいは5.5%、知的障がいは1.3%、精神障がいは3.8%と示されている(2024北海道)。

本事業において、集計方法について留意が必要であるが、札幌会場では来場者の約3%、旭川会場では約2%ほどの障がいがある人が確認された。また、インバウンドを除いた場合、札幌では、約5%、旭川では、約2%であった。

十分とは言えないものの一定程度の障がい者の参加があったと考えられる。

北海道スポーツ局スポーツ振興課オリンピック・パラリンピック連携室

【in赤れんが】

区分	来場者(人)			パラスポーツ体験(人)					アンケート
	一般	インバウンド	計	シットスキー	雪中ボッチャ	ピクルスストーンカーリング	計	スタンプラリー	
2月3日 (土)	366 (確 51)	136 (確 一)	502 (確 51)	141 (確 2)	159 (確 20)	160 (確 3)	460 (確 25)	136	93
2月4日 (日)	664 (確 4)	462 (確 一)	1,126 (確 55)	220 (確 1)	206 (確 4)	273 (確 3)	699 (確 8)	162	111
計	1,030 (確 55)	598 (確 一)	1,628 (確 55)	361 (確 3)	365 (確 24)	433 (確 6)	1,159 (確 33)	298	204

【in旭川】

区分	来場者(人)			パラスポーツ体験(人)					アンケート
	一般	インバウンド	計	シットスキー	雪中ボッチャ	ピクルスストーンカーリング	計	スタンプラリー	
2月10日 (土)	324 (確 10)	41 (確 一)	365 (確 10)	186 (確 10)	143 (確 10)	120 (確 10)	449 (確 30)	114	80
2月11日 (日)	231 (確 3)	32 (確 一)	263 (確 3)	228 (確 3)	165 (確 3)	179 (確 3)	572 (確 9)	156	107
計	555 (確 13)	73 (確 一)	628 (確 13)	414 (確 13)	308 (確 13)	299 (確 13)	1,021 (確 39)	270	187

・人数は延べ人数

・インバウンドは、外見や聞こえた言語から判断

・「来場者」の人数は、本部前テント付近を通じ各コーナーに集まった人数をカウント

・「パラスポーツ体験」の人数は、実際に体験した人数

・()内の障がい者数は内数(障がいの有無については目視やコミュニケーションにて判断)

注:正確に聞き取りを行ったわけではない点に注意。目視とコミュニケーションを基本としているため、障がい者はさらにいた可能性がある。

9

その他考察



○ アンケート結果の考察から、イベントの満足度は高かったものの、改善点がいくつか明らかになりました。

1.【事前準備の改善】

情報の整理・共有、会場準備にともなう情報共有、各ブースの役割の事前共有など、情報関係に関する改善点が多く挙げられました。これらの点に関しては、今回初めての試みでもあったことから、実施マニュアルの整備や事前準備の集約が必要です。

2.【備品・物品の事前確認と除雪対応】

事前に備品・物品の確認や除雪対応が求められており、特に積雪時に対応する方法について検討する必要があります。

3.【体験時の説明と待ち時間の工夫】

体験時の説明は十分であったものの、待ち時間に確認できるような看板等の準備が必要です。

4.【寒さ対策の改善】

当日の寒さ対策が挙げられており、天候に左右される可能性があるため、最悪の場合を想定した準備が必要です。

5.【人員配置と休憩頻度】

人員配置に余裕を持たせることや、厳寒期には休憩の頻度を多く設定する必要性が指摘されています。

6.【体験や会場の案内のわかりやすさ】

体験や会場の案内をよりわかりやすくする工夫が求められます。(英語表記など)

7.【暖房室の考察】

暖房室の設置が利用者にとって有益であるとされました。

8.【ステージイベントの活用】

ステージイベントをうまく活用して、体験機会につなげる方法の検討が必要です。

9.【雪中ボッチャとピクリストーンカーリング】

雪中ボッチャやピクリストーンカーリングは参加者にとって興味深い体験であり、雪上でのスポーツ体験の可能性を示唆しています。ただし、リンクを必要とする場合、その準備についても考慮する必要があります。

10.【シットスキーの実施】

市街地でのスキービークが提供された点は好評でしたが、降雪時の雪対策や転倒や衝突の安全対策に十分な配慮が必要です。

○ これらの改善点を踏まえて、今後のイベントの計画や実施に役立てることが重要

北海道スポーツ局スポーツ振興課オリンピック・パラリンピック連携室

10

次年度以降の計画



今年度は、支援者との連携やイベント内容等を検討、実施し、冬期間におけるパラスポーツイベント実施に際してのポイントや留意点を取りまとめました。

今回整理したポイントを踏まえた実施(基本)マニュアルを作成することで、様々な降雪地域でも留意点等を踏まえながら不安を軽減したイベント開催が可能になります。加えて、冬期間開催のハードルを下げていくため、実施ノウハウを蓄積する取り組みを継続し、最終的には全道への普及・展開を目指すとともに自走できる体制を整えていくこととします。

○次年度計画のポイント

- ・イベントの開催地について、札幌のほか、今回実施した旭川以外の地域での開催を検討する。
- ・冬期間の積雪が少ない地域(道東など)における開催種目について検討する。
- ・今年度の取り組みを踏まえ、実施マニュアルの作成を進め、具体化する。
- ・実行委員会の組成についても一定程度の蓄積ができたため、早期からの取り組みが可能であり、準備期間を十分に確保した事業展開を行う。
- ・開催地域に合わせた展開が可能となる開催方法のパッケージ化(ノウハウ蓄積とマニュアル作成)
→ パッケージの一部を取り出した小規模な活動など応用も可能。
- ・多様な機関との具体的な連携の内容事例の整理 → 実施のハードルを下げる取り組み。
- ・参加者の社会資源化促進の在り方 → 体験だけで終わらせず、「支援者」としての活躍につながる仕組みづくり。
- ・イベントとして終わらせるのではなく、取り組みをきっかけとした障がいがある人も冬期間継続的にスポーツに取り組める場づくり。
- ・就労支援事業所等関係者を実行委員会構成員に加え、障がいを持った方の参加を増やす方策を検討する。

イベントを契機に地域定着：オール北海道で障がい者と健常者がともにスポーツに親しむすそ野の拡大

北海道スポーツ推進条例関連条文（関係者相互の連携及び協働）第5条

道は、第2条に定める基本理念の実現を図るために、道民及びスポーツ団体その他の関係者と相互に連携を図りながら協働するよう努めるものとする。

北海道スポーツ局スポーツ振興課オリンピック・パラリンピック連携室

11

●一般社団法人日本デフバレーボール協会

令和5年度 障害者スポーツ推進プロジェクト
(障害者スポーツの実施環境に整備等に向けたモデル創出事業)

取組成果報告

取組テーマ：地域の課題に対応した障害者に対するスポーツの振興、実施環境の整備

一般社団法人日本デフバレーボール協会



事業概要



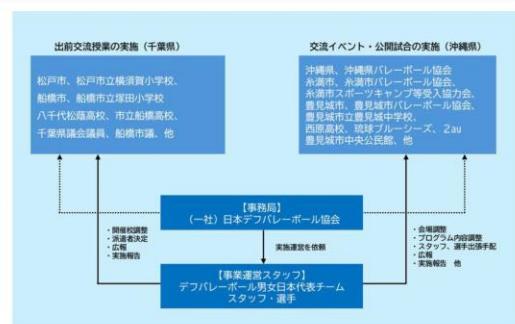
【事業趣旨】

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、障害者スポーツに関する周知や理解は促進されたが、聴覚障害者を対象としたスポーツ（デフスポーツ）の普及啓発や振興を目的とした取組はこれまで実施されていない。

また、聴覚障害は「目に見えない障害」であるため、他の障害種別と比較して理解も進んでいるとは言い難い。東京2025デフリンピックの開催が決定したが、バレーボール競技はその前年（2024年）に沖縄県で世界選手権が開催される。このため、本事業では、この2大世界大会の国内開催を契機として、デフスポーツやデフバレーボールの認知拡大を図り、聴覚障害者のスポーツ機会拡充はもとより、障害に対する理解が促進されることで、聴覚障害者と健聴者が「ともに」スポーツを実施する機会創出を図ることで、障害者スポーツ人口の拡大に貢献することを目的とする。

【主な事業内容】

- 1) 東京2025デフリンピックに向けたデフスポーツ人口の拡大と普及啓発の取組
千葉エリアの小学生を対象とした『出前交流授業』
- 2) デフバレーボール世界選手権2024(沖縄)を契機とした交流/機運醸成イベント
小学生を対象としたデフバレーボール体験・交流イベント
沖縄県内チームとデフバー代表チームによるエキシビションマッチ（公開試合）



千葉エリアの小学生を対象とした『出前交流授業』



日本デフバレーボール協会役員（難聴者）、男子日本代表チーム監督・スタッフ（健聴者）、代表選手（ろうまたは難聴者）が講師役となり、千葉県内の小学校2校にて（各校2回）、デフバレーボールを通じて理解と障害の有無を超えたコミュニケーションについての出前交流事業を実施した。

①松戸市立横須賀小学校での取組

開催日	令和5年12月5日（火）13：45～15：45（45分×2回）
JDVA参加者	大川 裕二（日本デフバレーボール協会理事長） 村井 貴行（男子代表チーム監督）
学校参加者	小学校6年生児童 140名 小学校6年生児童保護者 15名 小学校教職員（校長・教頭・教務主任・5年生担任） 8名
自治体関係者	松戸市にぎわい創造課文化スポーツ振興担当室 2名 松戸市広報課 2名



②船橋市立塚田小学校での取組

開催日	令和6年2月20日（火）13：45～14：45
JDVA参加者	村井 貴行（男子代表チーム監督） 高橋 竜一（男子代表チーム選手） 浅野 英樹（男子代表チームマネージャー）
学校参加者	小学校6年生児童 169名 小学校教職員（校長・教頭・教務主任・6年生担任） 8名
自治体参加者	船橋市生涯スポーツ課 2名 船橋市広報課 2名



デフバレー世界選手権2024(沖縄)を契機とした交流/機運醸成イベント



沖縄県内、特に世界選手権の試合・練習会場となる糸満市及び豊見城市の小学生を対象に、男女代表チームの代表選手との交流イベント、県内の健聴バレーチームとのエキシビションマッチ（公開試合）を行った。

交流イベントは、簡単な手話や身振りを使ってともにバレーを楽しむイベントとし、エキシビションマッチ（公開試合）は、デフバレーの試合を目の前で見てもらうことで、競技の認知度向上と世界選手権大会に向けての機運醸成を図った。

開催日	令和6年1月20日（土）、21日（日）
会場	糸満市西崎総合体育館、豊見城市立豊見城中学校
交流会参加者	糸満市内小学生バレークラブ40名 豊見城市小学生バレークラブ40名 ※インフルエンザ流行などにより、当日の参加者は約60名
エキシビションマッチ	男子：琉球ブルーシールズ、2 au 女子：沖縄県国体選抜チーム、西原高校3年生チーム ※2日間の延べ観戦者は約200名
自治体参加者	糸満市長、糸満市バレー協会会長（副市長） 糸満市觀光・スポーツ振興課、糸満市バレー協会 豊見城市生涯学習振興課 豊見城中学校男女バレー部
交流会実施内容	・デフバレー交流会 ・デフスポーツ、世界選手権、デフリンピックの紹介 ・手話で自己紹介をしてみよう ・手話バトンリレー ・バレー部ゲーム（試合） ※エントランスロビーにて、デフバレーの歴史を紹介するパネルやトロフィー、アルバムなどを展示

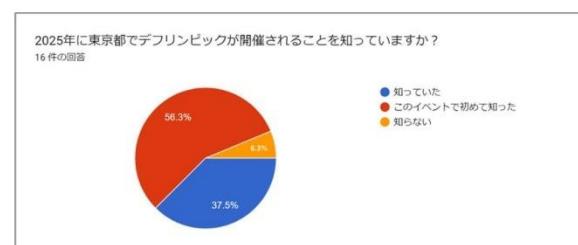
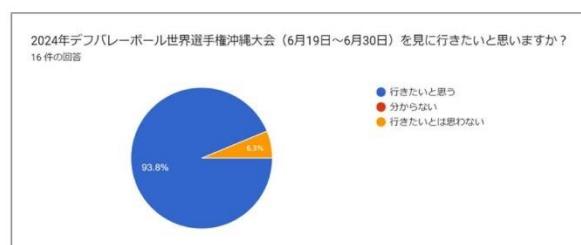
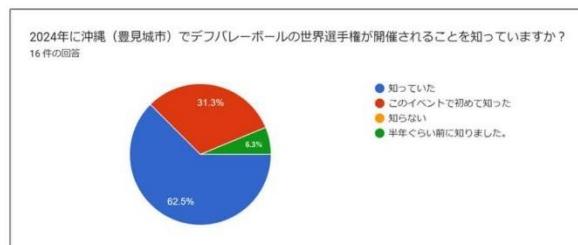
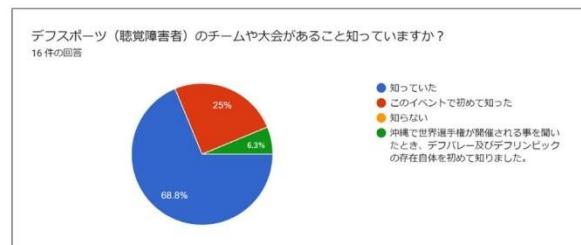


デフバレーボール世界選手権2024(沖縄)を契機とした交流/機運醸成イベント



二日間のイベントの中で、参加者に任意でアンケートに回答してもらった。

回答数は16名と多くはなかったが、デフバレーボールやデフリンピックの認知拡大、2024年世界選手権沖縄大会への観戦意欲の向上に貢献できたと考える。



事業の成果と今後の取組



本事業に取り組むことで目指していた「健聴者も聴覚障害者も、「ともに」スポーツを楽しむことができる社会」という姿については、なかなか数値で評価することが困難であるが、千葉での出張教室、沖縄でのイベントにおいてデフバー・デフスポーツ・手話に初めて触れたという対象者が一定数おり、交流の機会を創出できたことは大きな一歩であった。また、千葉、沖縄のイベント共にメディア取材もあり、露出にもつながった。まずは知つてもらい、体験してもらうこののような機会を増やしていくことで、「聞こえる」「聞こえない」の心理的なハードルは低くなっていくのではないかと考える。



●公益財団法人 B&G 財団

令和5年度 障害者スポーツ推進プロジェクト
(障害者スポーツの実施環境に整備等に向けたモデル創出事業)

取組成果報告

取組テーマ：(地域の課題に対応した障害者に対するスポーツの振興、実績環境の整備)

公益財団法人B&G財団



1. 事業概要①



■事業実施に至る背景 (B&G財団とは…)

B&G財団は、全国461か所に自治体の社会体育施設である「B&G海洋センター（艇庫・プール・体育館）」を建設。各地方自治体（主に教育委員会管轄）と協働で、子供たちを含めた地域住民に、スポーツや自然体験活動の機会提供のほか、地域コミュニティを活性化するための各種事業を展開。

■課題

「B&G海洋センター」は、地域の「スポーツとコミュニティの拠点施設」として住民に親しまれており、地域住民や子供たちを対象としたスポーツ等の事業は多数実施しているが、障がい者を対象とした事業は、充実しているとはいえない状況である。

公共スポーツ施設である「B & G 海洋センター」に、地域の障がい者がスポーツなどを継続的に楽しめる機会と環境を整え、地域での共生社会実現への一助としたい。

■事業概要

地域にある障がい者福祉団体などを対象に、障がい者が身近な場所でスポーツや身体活動を楽しむための「インクルーシブクラブ」を立上げ実施。また、地域の障がい者支援に関係する人・団体とネットワークを構築し、障がい者が定期的にB&G海洋センターでスポーツできる環境と基盤を整える。

■目的

- ①地域の障がい者が、身近な公共施設等でスポーツを楽しむための機会創出と基盤作り
- ②障がい者と健常者がともにスポーツに取り組めるインクルーシブな環境作り

■全国のB&G海洋センターから4自治体をモデル地域として、自治体とも協働で実施

「障がい者スポーツの推進状況・地域・周辺環境・対象」が異なる 以下の4団体を実行団体として実施

- | | |
|----------------|---------------------|
| ①北陸地方 富山県南砺市 | 南砺市福野 B & G 海洋センター |
| ②近畿地方 兵庫県上郡町 | 上郡町 B & G 海洋センター |
| ③中国地方 山口県周防大島町 | 周防大島町 B & G 海洋センター |
| ④四国地方 香川県高松市 | 高松市国分寺 B & G 海洋センター |



B&G海洋センター
「体育館・プール・艇庫」を所有
※自治体によって所有施設は異なる

1. 事業概要②

4本柱で実施

1.「インクルーシブクラブ」の立上げおよび実施

以下の3点を主としてクラブを実施

- ①近隣の障がい者を対象としたスポーツ教室の開催（ねらい：障がい者への定期的なスポーツ機会の提供）
- ②障がい者と健常者がともに参加するパラスポーツ等の体験会（ねらい：障がい者への理解）
- ③健常者（主に地域の子どもたち）対象のパラスポーツ体験会やインクルーシブ教育（ねらい：共生社会の実現に向けた地域の子供たちへの教育）

2.指導者研修会の実施

障がい者スポーツ・アーバンスポーツ等の研修会（ねらい：地域の障がい者スポーツを支える人材の育成）

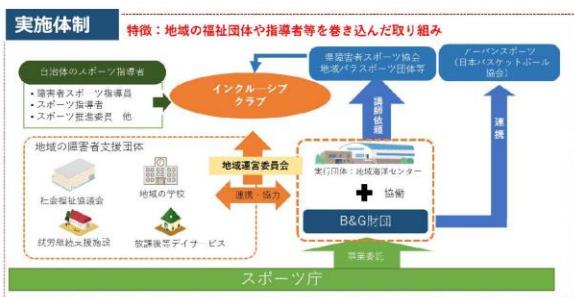
3.「地域運営委員会」の設置と開催

地域の障がい者支援に関わる団体・人などとのネットワーク構築と定期会合の開催（ねらい：地域の障がい者スポーツ振興や持続可能な体制作り）

4.「インクルーシブイベント」の開催

障がい者と健常者がともにスポーツを楽しむイベントやスポーツ交流会。インクルーシブクラブで練習したアーバンスポーツなどの成果発表の場も兼ねる（ねらい：障がい者と健常者が一緒に活動することにより、障がいについて考え方を深める機会とする）

2. 事業の実施体制・スキーム 地域の障がい者支援に関する団体・人・行政担当等の関係者を巻き込んだ取り組み



組織体制

有識者による「実行委員会」を設置するほか、各地域でも「地域運営委員会」を設置。



3. 事業内容（各実施地における活動内容）

1. インクルーシブクラブ

各実行団体で、「インクルーシブクラブ」として、障がい者や障がい児への定期的なスポーツ教室や、障がい者と健常者が合同で参加するスポーツ体験会等を実施



+ 上記をメインにその他、地域の子供等対象にも実施



④ インクルーシブイベントの開催

参加者（4カ所合計）：430名
(うち、障がい者71名)

南砺市「B&Gインクルーシブイベント ○▲□運動会」

- 日時：2024年2月23日
- 内容：障がいのある子供も無い子供も一緒に楽しめる変則ルールを導入した運動会（種目を1チーム2回実施。1回目より2回目がチーム成績を上回るよう話し合ながら進行。（変則玉入れ・しっぽ取りゲーム・チャレンジスキューードラヂビー・ショートラックレー）
- 参加者：70名（障がい者19名含む）



上郡町「車いすバスケットボール・3X3体験交流会in上郡町」

- 日時：2024年1月20日
- 内容：車いすバスケットボール・3x3 体験交流会
- 参加者：108名（障がい者5名含む）



周防大島町「B&Gインクルーシブフェスタin周防大島」

- 日時：2024年2月9日
- 内容：3x3・バスケットボール（ボッチャ・モルック） 交流会
- 参加者：132名（障がい者30名含む）



高松市「高松市スポーツ少年団インクルーシブイベント パラスポーツ体験会 スポーツを楽しもう」

- 日時：2024年1月28日
- 内容：ヒップホップダンス発表会、パラスポーツ交流会
- 参加者：150名（障がい者40名含む）



2. 指導者研修会の開催

障がい者スポーツ等の研修会を開催。合計9回、109人参加。

3. 地域運営委員会の設置と開催

合計19回開催。
地域における障がい者スポーツ振興の機運を高めるとともに、組織体制を構築することができた。

4. 事業の結果と考察

本プロジェクトには、障がい者や健常者（地域の子ども等）、福祉団体スタッフ等含め、延3,051名（うち、障がい者1,232名）が参加。各実行団体で、B&G海洋センターを核に、障がい者支援団体や障がい者スポーツ振興に携わる関係者等と新たな関係性を構築し、障がい者がスポーツできる環境と、子どもたちへのインクルーシブ教育など、今後の地域における障がい者スポーツ推進に向けた基盤を整えることができた

■各実行団体において、地域の障がい者が継続的にスポーツに取り組める機会と環境を整えた

- ・地域の障がい者団体と公共施設（海洋センター）が結びつき、近隣に住む障がい者へスポーツする機会を提供
- ・今後の発展・継続に向け、地域の障がい者支援に関する団体や人・行政担当者などとネットワークを構築。組織体制を整えた
- ・障がい者スポーツを支える新たな人材を育成



■障がい者スポーツ事業の継続的実施（自立化・自走化）

- ・各実行団体で、次年度も障がい者スポーツを継続実施。今後の地域における障がい者スポーツ推進の一助となつた

■地域の共生社会の実現に向け、障がい者スポーツ事業を具現化することができた

- ・インクルーシブクラブやインクルーシブイベントの開催は、地域の共生社会実現に向けた具体的な事例として具現化できた。インクルーシブイベントには、自治体執行部（首長もしくは副首長）が観察。本プロジェクトへの理解を深めてもらうことができた。南砺市では、本プロジェクトをきっかけに、次期、南砺市「スポーツ推進計画（後期）」に障害者スポーツが明記されることになった

課題

■日常的なインクルーシブ環境づくりには、更なる工夫が必要

- ・日常的に障がい者と健常者がともにスポーツを楽しむ環境づくりは（継続的な交流）更なる方策が必要
- 継続実施に向け、障がい者スポーツを推進するための人材育成と確保が重要

- ・継続的な事業実施には、核となる人材や事業をサポートしてくれる人材（ボランティア等含む）の確保が重要。人事異動等があつても築いたネットワークやノウハウが次に引き継がれるよう体制を整えておく必要がある。

■事業の定着化に向けた方策

- ・事業の発展・継続性に向けて、安定した財源の確保（受益者負担や企業協賛等）が必要。

■事業の発展性（対象者の拡大）

- ・新たな障がい者支援団体等との連携による対象者の拡大

5. 次年度以降の計画

【今後の展開】

■全国のB&G所在自治体と情報共有し、障がい者スポーツ事業の普及を図る

B&G財団は「行政」「教育」「指導者」に関するネットワーク（プラットホーム）を構築しており、様々な事業を全国的に普及させていくスキームを確立している。その事業展開スキームを使い、2022・2023年度実施した活動事例等をもとに、全国のB&G所在自治体に情報を共有し、海洋センター所在自治体での障がい者スポーツ普及に努める

南砺市（富山県）

総合型スポーツクラブの教室メニューの一環として、次年度も今年度実施した内容をベースに継続実施。課題であった放課後等ディサービス卒業生の受け皿づくりも進める。
 ・児童、生徒を対象としたクラブ展開から一般を含めたクラブ展開へ
 ・障がい児に運動を提供する場のみならず、社会との交流の場として、海洋センター事業等にも協力してもらう

上郡町（兵庫県）

次年度も愛心園の障がい者にスポーツやレクリエーション等の教室を計画。新たに「車いすテニスを取り入れるとともに、障がい者の「マリンスポーツ体験」もチャレンジ。

周防大島町（山口県）

①次年度も「さつき園」を対象に、定期スポーツ教室を開催。今年度実施できなかった体育館以外のプールや艇庫での体験活動もメニューに取り入れる
 ②周防大島の子どもたちへのバラ教育の更なる推進（継続実施）
 ・今年度実施した明新小学校、大島中学校は、次年度も継続実施。また、両校とも好評であったため、教育委員会の強みを活かし、他の学校への実施も検討。
 ③対象者の拡大とプログラムメニューの充実
 -「さつき園」以外の放課後等ディサービスやクリスタル（障がい児支援団体）にも参加を呼びかけ、対象者の拡大を図る
 ④バラスポーツやアーバンスポーツを通じた障がい者と健常者（小・中学生）の交流事業はもちろん、能登半島地震を教訓に防災運動会のプログラムを取り入れ、災害時に役立つ事業を検討中。

高松市（香川県）

次年度もインクルーシブクラブを引き続き実施。上期と下期に分けて実施。

- ①5月～9月（上期）…「マリンスポーツ体験会」
- ②10月～2月（下期）…「ヒップホップダンスクラブ」（定期教室）

※今年度同様、バラスポーツ体験会にてヒップホップダンスを披露し、スポーツ少年団との交流を図る計画。

●学校法人電子学園

令和5年度 障害者スポーツ推進プロジェクト (障害者スポーツの実施環境に整備等に向けたモデル創出事業)

取組成果報告

取組テーマ:

- ◎ウ) デジタル技術を活用した障害者スポーツ実施環境の整備
 - エ) オープンスペースを活用したインクルーシブなスポーツ実施環境の整備

学校法人 電子学園



事業概要及び実施体制 スキーム



- 1) デジタル技術を活用した老若男女や障がいの有無に関係なく参加可能なダンス・スポーツの実施環境の整備
 - 2) オープンスペース等空間の利活用によるインクルーシブなスポーツ実施環境の整備
 - 3) 競技体験者の更なる拡充
 - 4) エコシステムの構築・関係者のコミュニケーション基盤を構築



事業成果1デジタル技術を活用した老若男女や障がいの有無に関係なく参加可能なダンス・スポーツの実施環境の整備



「Sli de Rift/ Sli de Rift seahare」を体験可能な段階から競技者同士が競い合える段階まで引き上げるべく、ハードウェア・ソフトウェアを含む本機器及びシステムの開発を含む、実施環境の整備を行う

・ハードウェア

- 機体の走破性の向上
- 多様な身体性への対応幅の拡大
- オンライン・ローカルネットワークの不安定、レイテンシ問題解消

・ソフトウェア

- 遠隔操作技術を活用した新たな競技種目の開発
- 各種運用マニュアル化を通じた機体・環境構築の安定的運用
- インターフェイスデザイン・オペレーティングシステム開発及び改良
 - 体験者の待機中の効用拡大
 - 新たな運動獲得に至る時間の安定化
 - 運用人材の削減

・開発した競技の応用

- ダンススポーツ領域との融合(年1回の競技会)
- 持続的活動体制の構築 “スライドリフトプロジェクト”
- 研究体制の構築

・今後

- ・継続的な課題探索及び課題解消
- ・運営の安定化
 - 属人性の低下及び人材育成
 - 円滑な普及活動の促進
- ・リハビリテーション領域への応用
 - 研究機関との継続的調査及び妥当性の検証

事業成果2オープンスペース等空間の利活用によるインクルーシブなスポーツ実施環境の整備



オープンスペースでのインクルーシブなスポーツの実施環境に求められるアクセシビリティ要件を整理、整備

・オープンスペースの要件定義

- 広さ約10m x 6mの平面空間

オープンスペースの円滑な利用手法

- 短時間での設営撤去
 - 消耗品を中心とした環境構築資材
 - 高耐久素材の資材を解体なく繰り返し利用
 - 30分程度での設営及び撤去

・アクセシビリティの担保

- 競技空間
 - テープ等で段差なく空間を区切る
 - 高さが必要となる部材の選定
 - 柔軟性
 - 高さ5cm以下
 - 低摩擦素材

・競技上の情報処理

- 加齢に伴う乾燥への対応
- 身体的制約を包摂するセンサ選択

・今後

- ・スライドリフトプロジェクトによる月1回程度のオープンスペース等を用いた事業の継続
- ・イベントの規模に応じた競技人口拡大を目的とした運営メソッドの構築
 - 数万単位：団体連携
 - 数百単位：競技人口拡大
 - 数十単位：競技者定着及び熟練度向上

事業成果3 競技体験者拡充に向けた取組



全国でイベントを実施し、超人スポーツの認知を広めていくと同時に競技体験者の拡充にも注力する。

地方都市への展開

- ・宮崎県小林市(体験会)
- ・千葉県柏市(体験会/WS)
- ・東京都大田区(競技会)
- ・神奈川県横浜市(体験会)
- ・東京都港区(体験会/競技会)
- ・徳島県海陽町(シンポジウム)

今後

- ・地方自治体及び団体との連携
 - ・小林市：来年度事業継続
 - ・柏市：現地高校/産総研連携
 - ・大田区：来年度大会継続
 - ・横浜市：継続的な取り組み
 - ・港区：月1回程度の体験会
 - ・鎌倉市：イベントの実施
 - ・海陽町：継続的な取り組み
- ・地方自治体及び団体間での相互連携

事業成果4 エコシステムの構築・関係者のコミュニケーション基盤を構築



組織委員会の設立、運営

- ・基盤構築
 - 継続的事業実施組織
スライドリフトプロジェクト
 - 各地方都市との連携
 - 小林市
 - 横浜市
 - 海陽町
 - 鎌倉市
 - 教育機関との連携
 - 柏の葉高校
 - 慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科(KMD)
 - 情報系イノベーション専門職大学(iU)
 - 研究機関との連携
 - 産業総合研究所

今後

- ・スライドリフトプロジェクト
 - プロジェクトディレクター：初瀬氏
 - ダンススポーツ領域への展開拡大
 - 竹芝での定期的な体験会/大会の実施
 - コミュニティ拡大
- ・コミュニケーション基盤の拡張
 - 各自治体及び団体間での連携

事業継続

→属人性の低下

- ランニングコスト低下
- 円滑な活動拡大(多拠点同時事業実施等)
- 継続的な運営システムの改良

→自走性の担保

- 円滑な活動拡大
- 需要探索

横展開

→リハビリテーション領域への応用

- 専門的な医療知識の確保
- 入念な学術領域との連携

→他の超人スポーツ競技の巻込み

- 費用対効果等考慮した各競技運営者との調整

次年度以降計画

・継続に向けて

→地方都市連携等による活動領域の拡張

→運営に関するさらなる属人性の低下

→運営人材の育成

・横展開に向けて

→研究機関との連携によるリハビリテーション領域展開

→他の超人スポーツ競技へのノウハウの横展開

●一般社団法人日本パラ陸上競技連盟

令和5年度 障害者スポーツ推進プロジェクト
(障害者スポーツの実施環境に整備等に向けたモデル創出事業)

取組成果報告

取組テーマ： ((オ) 複数の特別支援学校等が参加する全国大会の開催及び運営組織の設置等)

(一般社団法人 日本パラ陸上競技連盟)



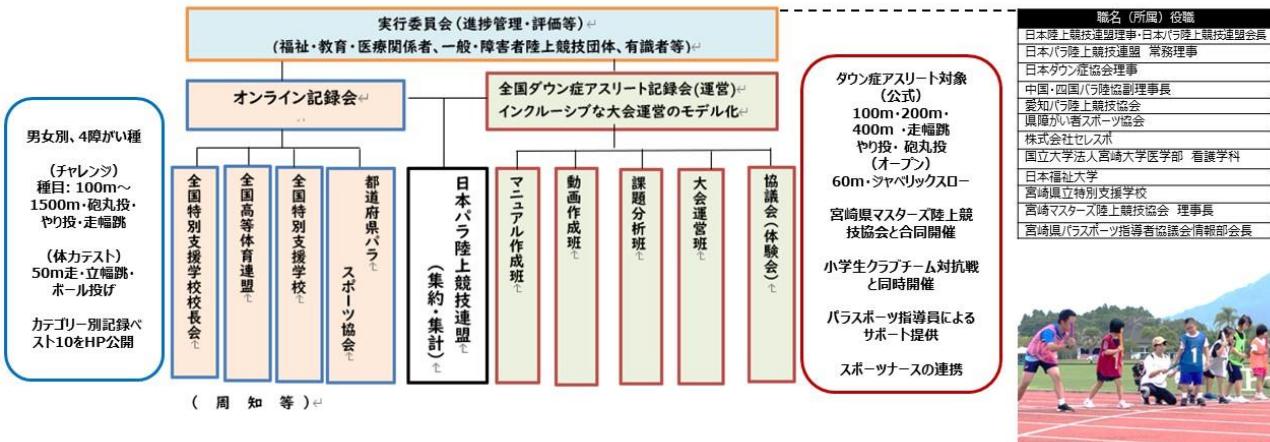
事業概要・事業の実施体制



【事業概要】

日本パラ陸上競技連盟（知的）は、ダウン症クラスの普及・発展を目的とし、2021年から「全国ダウン症アスリート記録会」を開催。この記録会は、障害の有無にかかわらず誰もが参加できるよう、オンラインでも実施され、特別支援学校に案内を送るなどして広く周知された。その結果、多くのエントリーを集め、参加者の増加や経費削減、地域での体験会実施などの成果を上げた。しかし、記録会の運営やオンライン版の見直しなど、課題も浮かび上がった。本事業は、障害の種別や程度に関係なく、誰もがスポーツに参加できる機会を創出することを目指し、記録会の開催やインクルーシブな大会運営のモデル化を推進している。

【事業の実施体制・スキーム】



当日の様子と選手の大会参加の確認事項



The booklet provides information on participation requirements, application procedures, timing, and various track and field events:

- 2023 Down's syndrome track and field meeting**
- ダウン症アスリートのリーフレット (大会参加での確認事項)**
- さ**: 参加資格をよく読んでね (Read the participation requirements carefully). Includes a QR code linking to the application form.
- し**: 申請書が使えるよ (The application form is available). Includes instructions for using the application form and a photo of a participant holding their certificate.
- す**: スターティングブロックの練習をしてね (Practice starting blocks). Includes a photo of a starting block and instructions for warm-up.
- せ**: セパレートレーンを走ろうね (Run on separate lanes). Includes a photo of a race track and instructions for running on separate lanes.
- そ**: 走・跳・投の種目に挑戦してみよう (Challenge the running, jumping, and throwing events). Includes a photo of a group of participants and a photo of a runner.
- 【周知】** (Information):
 - 走・跳・投の種目に挑戦してみよう
 - Virtus (国際的な障害者スポーツ連盟) では、以下の種目が設定されています (男女共通)
 - 【走】 100m, 200m, 400m, 800m, 1500m
 - 【走】 1500m 跳躍, 4×100m リレー
 - 【走】 走幅跳
 - 【投】 砲丸投 (男子 4.0kg・女子 3.0kg)
 - 【投】 円盤投 (男子 1.0kg・女子 0.75kg)
 - 【投】 やり投 (男子 600g・女子 400g)
- 【周知】** (Information):
 - 【走】 100m~400m のトラック競目と 800m のスタートから 100m 地点 (ブレイクライン) までは、自分に割り当てられたレーンを走らなければいけません。内側 (左) の白線に沿って走れば、他のアスリートと競争することができます。
 - 【走】 100m~400m のトラック競目と 800m のスタートから 100m 地点 (ブレイクライン) までは、自分に割り当てられたレーンを走らなければいけません。内側 (左) の白線に沿って走れば、他のアスリートと競争することができます。
- 【周知】** (Information):
 - 【走】 100m~400m のトラック競目と 800m のスタートから 100m 地点 (ブレイクライン) までは、自分に割り当てられたレーンを走らなければいけません。内側 (左) の白線に沿って走れば、他のアスリートと競争することができます。
- 【周知】** (Information):
 - 【走】 100m~400m のトラック競目と 800m のスタートから 100m 地点 (ブレイクライン) までは、自分に割り当てられたレーンを走らなければいけません。内側 (左) の白線に沿って走れば、他のアスリートと競争することができます。

第5章 障害者スポーツに関する情報収集及び発信

■プロジェクト名称・プロジェクトロゴマークの策定

本プロジェクトに関わる多くのステークホルダーに向けたコミュニケーション戦略の一環として、プロジェクトの趣旨や目指す姿を明確に打ち出すために、本事業の名称およびロゴマークの開発を行った。検討にあたっては、各分野の有識者などの意見も踏まえながら、スポーツ庁と協議の上、「U-SPORT PROJECT」という名称と以下のロゴマークを決定した。



決定したプロジェクト名称・ロゴマーク

プロジェクト名称である「U-SPORT PROJECT」の「U」には、「universal」「unbounded」「you」などさまざまな意味が込められている。SDGsが企業と連携しはじめたことで花開いたように、社会価値とビジネス価値が織り混ざりながら障害者スポーツ団体、民間企業・地方公共団体、様々なステークホルダーの力が重なることで障害者スポーツのあり方が変わっていく、その力が合わさっていくプロセスを「U-SPORT PROJECT」というプロジェクト名に託している。

ロゴマークは、本プロジェクトが、障害のある方とない方がともにスポーツを楽しめるという新しい世界への扉を開く様を、扉や本のように開く「U」の字をモチーフに表現している。また、ロゴに使用している色は、SDGsの3番目のゴール目標「すべての人に健康と福祉を」のグリーンと、17番目のゴール目標「パートナーシップで目標を達成しよう」のネイビーを使用し、障害者スポーツによって得られる健やかさや、それを支える人々のパートナーシップを表している。

■プロジェクトWEBサイトの構築

本プロジェクトの情報発信基盤として、プロジェクトのWEBサイトを構築した。



U-SPORT PROJECT

ユニバーサル社会へ、
あなたとスポーツの力で。

スポーツには、私たちをひとつにする力がある。
チャレンジする人と応援する人を。
ともに乗り越えるチームのみんなを。
あなたと称え合うライバルを。
障害の有無に関わらず、ひとつになる道をつけてくれる。

U-SPORT PROJECT。
Universalスポーツの力で、U=あなたの力で、Universal社会へ。
それは、われわれ自身の、固く閉じていた価値観の「扉」を開くプロジェクト。

スポーツをもっと、ユニバーサルなものに。
スポーツからもっと、ユニバーサルな社会へ。
賛同するみなさんのご参加を、これから様々なかたちで募ってまいります。



U-SPORT PROJECT
とは？

企業や団体と
繋がりたい

障害者スポーツ推進プロジェクト

「U-SPORT PROJECT」とは?

障害者スポーツ団体・民間企業・自治体が連携し、障害のある方とない方がともにスポーツを楽しむ機会の創出を目指します。



詳しくはこちら >



スポーツ庁は、このプロジェクトに参画してくださるみなさんを、
支援しています。

先進企業の認定
(予定)

企業・団体・自治体の
連携促進

情報の
発信・共有



Connection

企業や団体と繋がりたい

U-SPORT PROJECTでは、障害者スポーツ団体・民間企業・地方公共団体による、障害者スポーツ振興に係るモデル創出事業を実施しています。

協働・共創関係の構築や障害者スポーツを通じた新たな価値の創造に向けた支援を実施しています。

モデル創出事業 (公募)

本年度の公募は終了いたしました。

障害者スポーツ団体・民間企業・地方公共団体による、障害者スポーツ振興に係るモデル創出事業を実施しています。
本事業は、その他の障害者スポーツ普及の課題やトレンンドにあわせて様々な公募メニューを準備しておりますが、今事業において共創することとして、
障害者スポーツ団体・民間企業・地方公共団体の連携・協働・共創関係の構築に繋がるような繋がりを意識した取組を期待したものとなっています。

令和5年度「障害者スポーツ推進プロジェクト(障害者スポーツの実現環境の整備等に向けたモデル創出事業)」

本年度の採択企業・団体はこちら

一般社団法人 日本テフューラーホール協会 一般社団法人 日本バラ史上競技連盟 一般社団法人 日本ボッチャ協会

HDL株式会社 株式会社NHKエンタープライズ 学校法人電子学院 クオールホールディングス株式会社

公益社団法人 広島県バクススポーツ協会 公益財團法人 B&G財团 北海道

※五十音順

イベント情報

障害者スポーツ団体・民間企業・地方公共団体のマッチングや協働・共創を目的とした各種のイベントを開催しています。イベント情報は随時更新予定です。



【開催報告】「経営支援EXPO」出展
開催日程：2024年2月20日～22日
開催場所：東京ビッグサイト

詳しくはこちら >

**2024年
認定制度がスタート!***

*正式な開催日時は未定となります。本サイトにて随時情報を掲載予定です。

関連情報

障害者スポーツ団体・民間企業・地方公共団体による協働・共創の取組事例を発信していきます。
特に、インクルーシブなスポーツ大会やスポーツ団体と企業が連携したスポーツ大会の情報を発信していきます。
そのほか、障害者スポーツに関連する様々な情報や研修機会の提供も予定しています。

障害者スポーツを推進する企業・団体も紹介

「U-SPORT PROJECT」
公式アカウントで発信中



Contact

お問い合わせ

お問い合わせフォーム >



U-SPORT PROJECTとは?
企業や団体と繋がりたい
お問い合わせ

プライバシーポリシー
利用規約



スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY



ニコスポーツ
スポーツ情報・スポーツイベント情報サイト



DEPORTARE
スポーツ情報・スポーツイベント情報サイト



Sport in Life



[TOP > U-SPORT PROJECTとは？](#)

「U-SPORT PROJECT」とは？

「U-SPORT PROJECT」とは、スポーツ庁が実施する障害者スポーツを推進するプロジェクトです。

東京2020パラリンピック競技大会により、スポーツを通じた共生社会の実現に向けた機運が醸成されました。障害者スポーツの普及活動を持続可能なものとするためには、こうした機会を逃さず、障害のある人といふ人がともにスポーツを楽しむ機会を創出するとともに、障害者が生涯にわたってスポーツを実施するための基盤を整備することが重要です。

こうした観点から、本プロジェクトでは、障害のある人といふ人が身近な場所でスポーツとともに実施できる環境の整備や、障害者スポーツ団体、民間企業・地方公共団体等の関係団体の連携体制の構築等を促進していくこととしています。

SDGsが企業と連携しはじめたことで花開いたように、社会価値とビジネス価値が織り混ざりながら障害者スポーツ団体、民間企業・地方公共団体、様々なステークホルダーの力が重なることで障害者スポーツのあり方が変わっていく、その力が合わさっていくプロセスを「U-SPORT PROJECT」というプロジェクト名に託しています。

ロゴに込められた想い



障害のある方といふ人が、ともにスポーツを楽しめる。

そんな新しい世界への扉を開く様を、扉や本のように開く「U」の字をモチーフに表現しました。

SDGsの3番目のゴール目標「すべての人に健康と福祉を」のグリーンと、17番目のゴール目標「パートナーシップで目標を達成しよう」のネイビーを使用し、障害者スポーツによって得られる健やかさや、それを支える人々のパートナーシップを表しています。

イベント情報

障害者スポーツ団体・民間企業・地方公共団体のマッチングや協働・共創を目的とした各種のイベントを開催しています。イベント情報は随時更新予定です。

【開催報告】「経営支援EXPO」出展

2024.03.27



障害者スポーツで、新しいビジネスのヒラメキを!
2月20日~22日、東京ビッグサイトで開催された「経営支援EXPO」に、
U-SPORT PROJECTが出展しました!

今回の出展では障害者スポーツ団体等16団体と連携し、来場企業に対して、障害者スポーツ等の団体と組むことで、他社との差別化を図り、企業の新しいビジネスシーズの発展、DE&I経営推進への貢献、企業のブランディングや人材育成、事業創出などにつなげることを提案しました。

展示ブースでは、参加する16の各団体等の活動や強み、リソース、企業との連携事例等を知っていただけます。また、障害者スポーツを体験できるコーナーも設置。多くの企業の方にご来場いただき、U-SPORT PROJECTを知りたいとともに、出展団体との名刺交換・意見交換を行われました。



U-SPORT PROJECTでは、障害者スポーツ団体・民間企業・地方公共団体等の連携による、障害のある方とない方がともに楽しめるスポーツ環境の創出を目指し、今後もさまざまな取り組みを実施していきます。

【経営支援EXPO 出展概要】

◆日時:2024年2月20日(火)~2月22日(木) 各日10:00~17:00
◆会場:東京ビッグサイト 東2・3・7ホール(東京都江東区有明3-11-1)
程営支援EXPO内 U-SPORT PROJECTブース 小間番号 508-37

◆出展団体(順不同)

小学生ボッチャ競技会(株式会社NHKエンターブライズ/日本ボッチャ協会) | クオールホールディングス
株式会社/日本障がい者サッカー連盟 | H2L株式会社/日本障がい者カヌー協会 | P:UNITED | 日本ソーシャルフットボール協会 | 日本パラサイクリング連盟 | 日本障がい者ゴルフ協会 | 日本ブラインドラグビー協会 | 日本パラ陸上競技連盟 | 日本デフビーチバレー・ボール協会 | 日本ブラインドサッカー協会 | 日本パラアイスホッケー協会 | 日本ボッチャ協会 | 日本障がい者サッカー連盟 | 日本ローリング協会パラローング委員会

■プロジェクトSNSの立上げ

U-SPORT PROJECTの認知向上・理解促進に向けた情報発信ツールとして、プロジェクト公式Xを立ち上げた。今後、プロジェクトWEBサイトやスポーツ庁WEBサイト、その他の情報コンテンツ等と連動しながら、フレキシブルな情報発信・拡散に活用していく。

公式X（Twitter）の開設	
目的	U-SPORT PROJECT独自のXアカウントを運用することにより、本プロジェクトからの情報発信や、プロジェクトの趣旨に合致した情報の発信を強化し、次年度のコンソーシアム本格稼働に向けて、情報発信基盤を構築する。
コンセプト	障害者スポーツ推進やインクルーシブなスポーツ環境整備に関する取組の魅力や重要性を伝える
ゴール	プロジェクトの認知・理解拡大 コンソーシアム加盟拡大、新たな取組みの創出
ターゲット	広く国民（取組実施/参加）
頻度	月2～4回程度のオウンド投稿 <small>※情報量により増減</small>
コンテンツ	モデル事業の取組情報 障害者スポーツ団体、企業、自治体等の連携事例 インクルーシブ大会情報 その他プロジェクトの趣旨と合致する情報

← U-SPORT PROJECT
1件のリスト





U-SPORT PROJECT
@usportproject

スポーツ庁が障害者スポーツを推進するプロジェクト「U-SPORT PROJECT」の公式アカウント。障害者スポーツ団体、民間企業、自治体等が連携し、障害のある方とない方がともにスポーツを楽しむ機会を創出することを目指し、障害者スポーツに関するさまざまな情報を発信していきます。

⑨ 東京都千代田区 ⌂ u-sport.go.jp ⌚ 2024年3月からTwitterを利用しています

0 フォロー中 25 フォロワー
スポーツ大臣さんにフォローされています

ポスト 返信 メディア いいね

U-SPORT PROJECT @usportproject - 3月27日
初めてまして
障害者スポーツを推進するプロジェクト「U-SPORT PROJECT」です。障害のある方とない方が共にスポーツを楽しめるユーバーサルな環境作りを目指します。
u-sport.go.jp
#USPORTPROJECT #スポーツ庁 #障害者スポーツ #ユーバーサルスポーツ #インクルーシブスポーツ



トップページ | U-SPORT PROJECT
u-sport.go.jp/

0 フォロー 18 評議 16 いいね 5,743

U-SPORT PROJECT 公式X（@usportproject）

■プロジェクトタイアップ企画の実施

本プロジェクトの核となる、民間企業と障害者スポーツ団体の協働関係構築・価値の共創の促進と、先進的な事例の発信を目的に、ビジネス系媒体の記事タイアップを企画・実施。具体的には、障害者スポーツに関する取組に積極的な企業として長瀬産業株式会社 代表取締役会長 朝倉研二様にご協力いただき、室伏長官との対談を実施し記事化。その中で、U-SPORT PROJECT と今後を見据えた想いにも触れていただいた。

本事業の成果と課題

本年度は、プロジェクト本格稼働に向けた基盤整備の期間と位置づけ、現状把握調査からさまざまな仮説設計・試行・検証を行った。その結果、「U－SPORT PROJECT」を立ち上げ、そこに集う関係者がさまざまな連携の形を模索するための場を提供したり、関連情報を発信したりするための基盤整備や、コンソーシアム、認定制度の設計など、次年度に走り出す準備を整えることができたことは成果と言える。

一方で、各種の試行・検証から見えてきたこととして、障害者スポーツ団体・民間企業・地方公共団体の連携については、互いに連携することのメリットに可能性を感じているものの、それが実際に接続し持続的な取組みとして動き出すには、まだ多くの課題が残る。次年度には、コンソーシアムや認定制度等の運用を開始させながらも、平行して本プロジェクトの趣旨の認知・理解促進と、3者が連携するための具体的な接点づくりについての試行を繰り返しながら、ブラッシュアップを続けていく必要があると考える。